

IV 一会一座

毛無山

函館マウンテンクラブ

北斗市の毛無山はあまり有名な山ではないが、地元には愛されている山で、「自然に親しむ会」主催の春の登山会には毎年70~80人も参加者がある。ここ2年間は新型コロナウイルス感染防止のため「自然に親しむ会」等の団体での山行は中止となっているものの、個人的に登っている人は少なからずある。

『函館マウンテンクラブ』に入会させてもらって10年そこそこの私が、この毛無山の整備登山に初めて参加したのは令和2年7月初旬のとても暑い日でした。

毛無山は普通に登って3時間弱で山頂に到着する山である。途中、桧沢の滝や大石の沼等があって初級者から中級者向けの人気の山である。普段は何気なく登っている山だが、実際に整備登山というものを経験してみて、誰かがしてくれている登山道整備に改めて感謝の気持ちを大きくしたものでした。

この年はコロナ禍の影響で団体での登山計画もなく、整備登山も行われていませんでした。そのため、日当たりの良いところや笹原を切り開いたところは鬱蒼としていてやぶ漕ぎのようなところもありました。そこを草刈り機で払いながら、整備していくのです。普段の登山装備に加え、草刈り機とその燃料をもって出かけました。計画では五合目から頂上まで整備する予定でした。そのつもりで登って行ったのですが、なんと五合目から七合目まで草刈りがしてあるではありませんか。まだ登山道などなかった毛無山を登山できるように尽力してくれた大野町(現在は上磯町と合併して北斗市)元町長の吉田さんが何日か前に刈り払ってくれたのだそうです。アウトドア派の吉田さんがこの毛無山をたくさんの人



が登って楽しんでくれるよう登山道開通にかかわった経緯から今でも愛着を持って自発的に登山道整備をしてくれているのだそうです。ありがたいことです。

『函館山楽クラブ』が中心となり、我々『函館マウンテンクラブ』がお手伝いをする形で総勢16名が四つの班を作り整備していきました。山道を覆っている草や笹を草刈り機で刈り払いながら進みます。後ろの人は草刈り機の人ザックを背負って、刈り払った草や笹を除けていきます。刈り払ったままの笹等が残っていると結構滑ったりして危険なのです。午前8時頃に登山口を出発してから、作業を終えて頂上に着いたのは午後1時を過ぎていました。途中捕食をとりながらの作業でしたが、頂上でのおにぎりはいつも増しておいしいものでした。いろいろな山に登っている時も、地元の山岳会の人たちや関係者の方々が整備してくれているのだろうとは頭の中では分かっていたのですが、自分で体験してみて、改めてそのありがたさが分かった一日でした。

副会長 小笠原 正司